

継続的な調査を手がかりに

◆ 調査部 ◆

調査部長

河上 克己



教育改革の波が早いスピードで学校現場に打ち寄せている。中央教育審議会では、「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」を取りまとめた。道徳の時間を、「特別の教科 道徳」（仮称）として位置づけ、道徳教育の改善・充実を図ることが提言された。さらには、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方に関して諮問が行われているところである。

そのような中、校長は自己研鑽や情報収集に努め、明確なビジョンをもちながら学校経営を推進していくことが必要となる。

調査部では、校長として未来を指向した学校づくりに向けて、学校運営上の諸課題の解明に役立てることを目的として、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」を組織し調査活動を行った。両委員長の素晴らしいリーダーシップと各部長の熱意により、その結果を「教育調査資料」としてまとめた。市町教育費については、どの市町も財政面では厳しい中で昨年度以上の教

育予算を確保している。児童一人当たりの予算額で見ると、最も多い市町と少ない市町では、昨年度よりも格差は更に広がり、十六倍となつて

いる。次年度の学級編制及び教職員配置、教職員の組織については、児童数の減少が今後も続き、教職員数の減少や複式学級の増加などが予想される。今後も大量退職、大量昇任・採用が続くことが予想され、キャリアアステージに応じた人材育成が求められている。

学校経営に対する校長の意識については、「授業改善・授業力向上」「組織力・資質向上」が学校運営の課題であり目標でもあるという結果であった。校長自身が自己の役割を改めて確認し、学校経営の最高責任者として多様な人の思いを集約し追究していかなければならないと感じた。本調査にご協力をいただいた市町教育委員会や関係各位に心から感謝を申し上げる。

各 専 門 部 か ら の 報 告

役に立つ情報発信を

◆ 広報部 ◆

広報部長

大木 昇



山本会長が、「子どもたちが志を高くもち、未来に向かって共にたくましく生きる能力を育成する」という根幹を揺るぎないものとして据え、小学校教育の現状と課題を正しく把握し、不易と流行を見極めつつ先進的な知見をもち、信頼される学校づくりを目指す」と提言された。広報部ではその提言の具現化を図るために、「会報」編集委員会と「歩み」編集委員会の二つの委員会を組織し、次の五つの努力点を掲げ、広報誌「会報」と機関誌「歩み」の編集・発行に取り組んだ。

今年度も、「会報」（第二六七号～二六八号）と「歩み」（第五七号）を計画通り発行できたことは、両編集委員の熱意と連携、そして、会員各位や各方面の方々の温かいご協力の賜であると感謝している。

一 会員に親しまれ、役に立つ「会報」「歩み」にするための工夫

とりわけ、両編集委員長の素晴らしいリーダーシップや段取りのよさがなかったら、「会報」「歩み」を滞りなく発行することは困難であったと思う。

二 各支部の創意ある教育活動や「志」を育む学校運営の紹介

また、全連小では、小学校教育振興のための世論の喚起を目指して、「教育研究シリーズ」「小学校時報」「全国特色ある研究便覧」等を発行している。大変お忙しい中「教育研究シリーズ第五三集」「小学校時報」に論文や原稿をお寄せいただいた皆様に、改めて心よりお礼を申し上げます。

三 本会の活動方針の浸透と、活動内容の周知及び情報活動・速報活動の充実

今後、会員の皆様方にとって役に立つ、そして、会員相互の貴重な情報源となるような、広報誌・機関誌を目指し、内容の充実に努めていくので、広報部の活動にご理解とご協力をお願いしたい。

四 本会ホームページの周知と活用

五 全連小広報活動への協力・連携